

# 研究シーズ

岩手大学

シーズ名	ブルーベリー・ラズベリーに感染するウイルスの診断	分類：10
所属 / 職 / 氏名	岩手大学農学部 / 准教授 / 磯貝雅道	
キーワード	ブルーベリー・ラズベリー・植物ウイルス・診断	

どんな技術？

一言アピール

**ウイルス病に感染した樹を治すことはできません。またウイルスに感染すると、保毒樹となり感染が拡大してしまいます。ウイルス被害を防止するために母樹および苗木のウイルス診断が重要になります。**

ブルーベリーやラズベリーの栽培が日本で急速に拡大しています。海外においても同様に、健康志向の高まりから拡大しております。海外では、栽培の拡大に伴って、多数のウイルスがブルーベリーやラズベリーに感染して甚大な被害を引き起こしていることが報告されています。日本でウイルス調査を行うと、海外で発生しているウイルスが日本のブルーベリーやラズベリーに病気を引き起こしていること、



さらに、世界未報告の新種ウイルスが発生していることを突き止めました。ブルーベリーやラズベリーは永年性作物であるため、ウイルス感染樹は毎年のように被害を受けるばかりか、保毒樹となり圃場の健全樹に感染を拡大してしまいます。そのため、アメリカでは National Clean Plant Network によりブルーベリーやラズベリーのウイルス研究および診断が行われております。本シーズは、ブルーベリーやラズベリーの母樹・苗木のウイルス診断を行うことで、事前に圃場にウイルスが導入されることを防ぐことができる。

何に使えるの？

ブルーベリーやラズベリーのウイルス感染拡大を防ぎ、果実の安定生産が期待できます。

関連特許

関連資料等

Isogai M. et al. (2012) Identification and characterization of blueberry latent spherical virus, a new member of subgroup C in the genus Nepovirus. Archives of Virology 157, 297-303.

Isogai M. et al. (2012) First report of raspberry yellows disease caused by raspberry bushy dwarf virus in Japan. Journal of General Virology, In press.